

令和元年度 北区民まちづくり会議 各部会の開催結果について

- 「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりの一層の推進を念頭に、区民お一人お一人の日常生活において、「“まち”との関わりが大切」と改めて実感いただける計画を目指す。
- 北区民まちづくり会議の下に4部会（①人口減少、②防災、③高齢化、④文化・観光）を設置。それぞれの課題や取組アイデアを出し合った。また、議論に横串を指す合同部会を2回開催し、取組アイデアの深掘りを行った。議論には、区民等延べ350名がご参画。その結果、「地域とのつながりが希薄である状態」＝「孤立」がキーワードとして挙げられた。
- いただいたご意見を踏まえ、地域企業との連携など多様な切り口を念頭に置いて、令和元年度末に骨子をまとめている。

1 テーマ

個人の暮らしに対して「まち・まちづくりにできることは何か？」

2 構成上の特徴

- ・ 区民一人ひとりの暮らしに寄り添う（＝役立つ）計画とするため、ライフステージ別に想定される課題と解消に向けた取組アイデアを整理する。
- ・ 既存取組も併せて掲載し、より豊かで充実した暮らしのためには、まちとの‘関わり’が大切であることを実感できる内容とする。

3 検討状況

- ・ 北区が直面する喫緊の課題をテーマとする部会を設置し、それぞれ開催済み。
- ・ 全部会には、地域代表者、北区民まちづくり会議委員、PTA 等地域の若手の担い手、各種団体、北区民まちづくり提案支援事業活用団体、大学生等延べ350名が参画

部会名		日程	出席者数	参加者の例
単 独 部 会	人口減少部会 (部会長：藤野 京産大現代社会学部長)	6/25	41名	シェアハウス運営団体、 SILK、中小企業家同友会
	防災部会 (部会長：松岡 佛教大保健医療技術学部教授)	6/26	49名	地域包括支援センター、 京都ライトハウス
	高齢化部会 (部会長：志藤 大谷大社会学部長)	8/28	69名	民生委員、 老人福祉委員
	文化・観光部会 (部会長：河角 立命大准教授)	9/2	55名	能楽師、伝統工芸、茶道、 寺社仏閣の関係者
合同部会 ※4部会の合同開催		12/17 12/22	79名 54名	能楽師、伝統工芸、地域 包括支援センター

4 部会における主な意見

○単独部会

- ・(大学生とまちのいい関係について) 地域側が主導権を握り、学生を使うという発想ではなく、学生に自由にやってもらい、変なことをしそうなら止めるというスタンスが大切だ。
- ・(若者世代の移住につなげるアイデアとして) 楽只市営住宅の再整備区域に、起業したい人が共同生活をするスペースや、コワーキングスペースを作ってはどうか。
- ・(「子育て世代にとっては、数人の小さいコミュニティの方が安心されるようだ」や「児童館で開催している『ちびっこ広場』に様々な学区から集まってくる」などの声に関係して) 顔の見える関係ができれば、学区のサロンにも足を運びやすくなる。
- ・(「独居高齢者は1週間誰とも会話しなないことも多い」という声に対して) 高齢者が集える場が大切。そこに子どもも参加できればなおよい。
- ・(北山三学区への移住や防災に関連して) 山主さんも町中に住んでいたりするので、いざという時に山間部以外の人に助けてもらうなど、共助できる仕組みが必要

○合同部会

- ・(お題「子どもが、地域の文化や活動に触れて継承したり、地域企業の活動を知るには」に対して) 神社やお寺、すぐき作りなど北区ならではの職業体験をしてもらうことで、将来の後継者発掘にもつながるのでは。
- ・(お題「大学生が、学び経験したくなる地域での出会いや交流のしかけとは」に対して) 地域・大学・企業からキーパーソンを出しあって、人と人のネットワークの中心を担う「ハブ」として機能させてはどうか。
- ・(お題「40～60歳代の世代が、北区で学びや遊びを経験し、地域活動につながるには」に対して) 様々な情報媒体による発信や、開催時間や子ども連れ対応など、運営面での工夫が必要。また、社会貢献などの大きな目標があれば集まりやすい。
- ・(お題「障害者への理解が深まり、誰もが安心して生活できる環境をつくるには」に対して) 学区ごとに「フナオカスタンダード」のような、障害のある人の得意分野を活かして活躍する場をつくってはどうか。
- ・(お題「外国人観光客に北区の魅力をもっと伝えたい」に対して) 楽只市営住宅の再整備で、案内所機能を併せ持つ交流センターを設置。大学生をスタッフとして、北区の伝統産業、農林産物を紹介するアンテナショップ的役割も持たせてはどうか。